

2課

預言者の召し

10月10日

安息日午後

10月3日

暗証聖句

そのとき、わたしは主の御声を聞いた。「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。」わたしは言った。「わたしがここにあります。わたしを遣わしてください。」(イザヤ 6:8、新共同訳)

わたしはまた主の言われる声を聞いた、「わたしはだれをつかわそうか。だれがわれわれのために行くだろうか」。その時わたしは言った、「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください」。(イザヤ 6:8、口語訳)

今週の聖句

創世記 15:6、ガラテヤ 3:6～9、列王記(列王紀)上 18:19～39、イザヤ 53 章、
ダニエル 2:46～48、マルコ 1:2～5、マタイ 11:1～6

今週のテーマ

聖書の時代、預言者は神の民の歴史において、しばしば重要な役割を果たしました。時として、彼らは主役となり、共同体の生活の中で決定的な役割を果たす立場とは言わぬまでも、有力な立場を占めることができました。

しかし、預言者になるというのは、困難な召しでした。彼らの生涯は決して楽なものではなく、悲しみと拒絶、誤解と挫折に満ちていました。

神の預言者たちは、しばしば預言者の働きへの召しをすぐには受け入れることをしませんでした。しかし、それも無理のないことです。なぜなら多くの預言者は、彼らのメッセージを歓迎すべき人々から強く反対されたからです。神の預言者たちは、無視され、嘲笑され、殴打され、投獄されたのです。石打ちに遭ったり、野獣のように追われたりした者もいれば、何人かは殉教しました。

暴力、貪欲、不道德、搾取、あらゆる種類の悪魔的な影響にあふれたこの時代において、預言者の声は、しばしば拒絶され、あるいは単純に無視されています。私たちは、神の預言者の声に耳を傾け、彼らを通して与えられた希望を伝える者となるように召されているのです。先週、私たちはエデンの園での墮落後、神が人間との関係を回復するために働かれたことを学びました。

今週は、墮落した世界に向けた神のメッセージにご自分の民を立ち帰らせるため、神が預言者を召された歴史上の重要な時期をいくつか見ていきます。

創世記から黙示録に至るまで、神は、神の恵みに応えて従順への呼びかけを受け入れた忠実な残りの民を持ってこられました(エレ 31:7, 31~34 参照)。例えば、バベルの離散から何年もあとに、神はアブラム(のちのアブラハム)を、彼の家族だけでなく、将来のあらゆる世代にとって契約の信仰の模範となるように選ばれました。背教と道徳的な葛藤に囲まれながらも、アブラムは神の召しに忠実であることを証明したのです(創 12:1~9 参照)。

神はアブラハムに契約の条件を伝え、キリストの犠牲を通して人類の救いがいかに成し遂げられるのかを示されました(創 15:6~17)。アブラハムの信仰を試し、神の御子が将来ささげられる犠牲を例示するために、アブラハムは息子イサクを神への犠牲としてささげるように命じられます(同 22:1~17)。信仰の父にとって、なんと耐え難い試練だったことでしょう。神の明確な命令を無視する理由はいくらでも考えられたはずですが、それでも彼は忠実に従いました。神は、アブラハムがイサクを殺そうとするその手を止め、代わりに雄羊を備えてくださいました。

すべての預言者が迫り来る破滅を警告するために、神から召されたものではありません。しかし、預言者はみな、民を忠実な状態に回復するために召されており、しばしば、背教に対して、また貧しい者や困窮する者たちへの抑圧に対して、さらに契約とその規定への違反に対して警告するために召されました。

ですが、何よりも重要なのは、預言者がメシアによる救いの約束を明らかにすることでした。使徒時代以降の私たちの時代においても、聖書の預言者と聖霊の揺るぎない証しは、世界に迫り来る危機を認識し、他者に警告するよう、私たちに呼びかけています。しかし、その警告の中心にあるのは、イエスの忠実な民、すなわちイエスとの契約関係にとどまってきた者たちのためのあがないの福音なのです(黙 12:17)。

問1 創世記 15:6、ガラテヤ 3:6~9、ヘブライ(ハブル) 11:8 を読んでください。アブラハムは明らかに欠点のある人間でしたが、彼の生き方と品性のどんなところが、彼を神の奉仕にふさわしい者としたのでしょうか。

アブラハムの時代と私たちの時代には、多くの類似点があります。アブラハムの時代に異教と偶像礼拝が蔓延していたように、今日、世界中の対立するイデオロギーの多くは、キリスト教を排除、または軽視しようとしています。現代の神の民は、三天使のメッセージを宣べ伝えることを含め、他者との日々の交わりにおいて神の姿を忠実に反映するよう召されています(黙 14:6~12)。

【参考】英語テキストにある文

Scripture says that Abram “believed in the Lord; and he counted it to him for righteousness” (Gen. 15:6). How do you see the promise of the gospel powerfully revealed in this text? What hope can you take from this for yourself?

聖書には、アブラムは「主を信じた。主はそれを彼の義と認められた」〔口語訳「主を信じた。主はこれを彼の義と認められた」〕(創15:6)と記されています。この聖句には、福音の約束がどれほど力強く明らかにされているとあなたは考えますか。また、ここから、あなた自身にとってどんな希望を見出すことができますか。

12

エレ 31:7 (新共同訳)

31:7 主はこう言われる。ヤコブのために喜び歌い、喜び祝え。諸国民の頭のために叫びをあげよ。声を響かせ、賛美せよ。そして言え。「主よ、あなたの民をお救いください/イスラエルの残りの者を。」

エレ 31:31~34 (新共同訳)

31:31 見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。

31:32 この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだものではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる。

31:33 しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

34:34 そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、「主を知れ」と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない。

創 12:1~9 (新共同訳)

12:1 主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷/父の家を離れて/わたしが示す地に行きなさい。」

12:2 わたしはあなたを大いなる国民にし/あなたを祝福し、あなたの名を高める/祝福の源となるように。

12:3 あなたを祝福する人をわたしは祝福し/あなたを呪う者をわたしは呪う。地上の氏族はすべて/あなたによって祝福に入る。」

エレ 31:7 (口語訳)

31:7 主はこう仰せられる、「ヤコブのために喜んで声高く歌い、万国のかしらのために叫び声をあげよ。告げ示し、ほめたたえて言え、『主はその民イスラエルの残りの者を救われた』と。」

エレ 31:31~34 (口語訳)

31:31 主は言われる、見よ、わたしがイスラエルの家とユダの家とに新しい契約を立てる日が来る。

31:32 この契約はわたしが彼らの先祖をその手をとってエジプトの地から導き出した日に立てたようなものではない。わたしは彼らの夫であったのだが、彼らはそのわたしの契約を破ったと主は言われる。

31:33 しかし、それらの日の後にわたしがイスラエルの家に立てる契約はこれである。すなわちわたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となると主は言われる。

31:34 人はもはや、おのおのその隣とその兄弟に教えて、『あなたは主を知りなさい』とは言わない。それは、彼らが小より大に至るまで皆、わたしを知るようになるからであると主は言われる。わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない」。

創 12:1~9 (口語訳)

12:1 時に主はアブラムに言われた、「あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。」

12:2 わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう。

12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地のすべてのやからは、あなたによって祝福される」。

12:4 アブラムは、主の言葉に従って旅立った。ロトも共に行った。アブラムは、ハランを出発したとき七十五歳であった。

12:5 アブラムは妻のサライ、甥のロトを連れ、蓄えた財産をすべて携え、ハランで加わった人々と共にカナン地方へ向かって出発し、カナン地方に入った。

12:6 アブラムはその地を通り、シケムの聖所、モレの榿の木まで来た。当時、その地方にはカナン人が住んでいた。

12:7 主はアブラムに現れて、言われた。「あなたの子孫にこの土地を与える。」アブラムは、彼に現れた主のために、そこに祭壇を築いた。

12:8 アブラムは、そこからベテルの東の山へ移り、西にベテル、東にアイを望む所に天幕を張って、そこにも主のために祭壇を築き、主の御名を呼んだ。

12:9 アブラムは更に旅を続け、ネゲブ地方へ移った。

創 15:6～17 （新共同訳）

15:6 アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。

15:7 主は言われた。「わたしはあなたをカルデアのウルから導き出した主である。わたしはあなたにこの土地を与え、それを継がせる。」

15:8 アブラムは尋ねた。「わが神、主よ。この土地をわたしが継ぐことを、何によって知ることができましょうか。」

15:9 主は言われた。「三歳の雌牛と、三歳の雌山羊と、三歳の雄羊と、山鳩と、鳩の雛とをわたしのものと持って来なさい。」

15:10 アブラムはそれらのものをみな持って来て、真っ二つに切り裂き、それぞれを互に向かい合わせて置いた。ただ、鳥は切り裂かなかった。

15:11 はげ鷹がこれらの死体をねらって降りて来ると、アブラムは追い払った。

15:12 日が沈みかけたころ、アブラムは深い眠りに襲われた。すると、恐ろしい大いなる暗黒が彼に臨んだ。

15:13 主はアブラムに言われた。「よく覚えておくがよい。あなたの子孫は異邦の国で寄留者となり、四百年の間奴隷として仕え、苦しめられるであろう。

12:4 アブラムは主が言われたようにいで立った。ロトも彼と共に行った。アブラムはハランを出たとき七十五歳であった。

12:5 アブラムは妻サライと、弟の子ロトと、集めたすべての財産と、ハランで獲た人々とを携えてカナンに行こうとしていで立ち、カナンの地にきた。

12:6 アブラムはその地を通してシケムの所、モレのテレビンの木のもとに着いた。そのころカナンびとがその地にいた。

12:7 時に主はアブラムに現れて言われた、「わたしはあなたの子孫にこの地を与えます」。アブラムは彼に現れた主のために、そこに祭壇を築いた。

12:8 彼はそこからベテルの東の山に移って天幕を張った。西にはベテル、東にはアイがあった。そこに彼は主のために祭壇を築いて、主の名を呼んだ。

12:9 アブラムはなお進んでネゲブに移った。

創 15:6～17 （口語訳）

15:6 アブラムは主を信じた。主はこれを彼の義と認められた。

15:7 また主は彼に言われた、「わたしはこの地をあなたに与えて、これを継がせよう。あなたをカルデアのウルから導き出した主です」。

15:8 彼は言った、「主なる神よ、わたしがこれを継ぐのをどうして知ることができますか」。

15:9 主は彼に言われた、「三歳の雌牛と、三歳の雌やぎと、三歳の雄羊と、山ばとと、家ばとのひなとをわたしの所に連れてきなさい」。

15:10 彼はこれらをみな連れてきて、二つに裂き、裂いたものを互に向かい合わせて置いた。ただし、鳥は裂かなかった。

15:11 荒い鳥が死体の上に降りるとき、アブラムはこれを追い払った。

15:12 日の入るころ、アブラムが深い眠りにおそわれた時、大きな恐ろしい暗やみが彼に臨んだ。

15:13 時に主はアブラムに言われた、「あなたはよく心にためておきなさい。あなたの子孫は他の国に旅びととなって、その人々に仕え、その人々は彼らを四百年

15:14 しかしわたしは、彼らが奴隷として仕えるその国民を裁く。その後、彼らは多くの財産を携えて脱出するであろう。

15:15 あなた自身は、長寿を全うして葬られ、安らかに先祖のもとに行く。

15:16 ここに戻って来るのは、四代目の者たちである。それまでは、アモリ人の罪が極みに達しないからである。」

15:17 日が沈み、暗闇に覆われたころ、突然、煙を吐く炉と燃える松明が二つに裂かれた動物の間を通り過ぎた。

創 22:1～18 (新共同訳)

22:1 これらのことの後で、神はアブラハムを試された。神が、「アブラハムよ」と呼びかけ、彼が、「はい」と答えると、

22:2 神は命じられた。「あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。わたしが命じる山の一つに登り、彼を焼き尽くす献げ物としてささげなさい。」

22:3 次の朝早く、アブラハムはろばに鞍を置き、献げ物に用いる薪を割り、二人の若者と息子イサクを連れ、神の命じられた所に向かって行った。

22:4 三日目になって、アブラハムが目を凝らすと、遠くにその場所が見えたので、

22:5 アブラハムは若者に言った。「お前たちは、ろばと一緒にここで待っていなさい。わたしと息子はあそこへ行行って、礼拝をして、また戻ってくる。」

22:6 アブラハムは、焼き尽くす献げ物に用いる薪を取って、息子イサクに背負わせ、自分は火と刃物を手に持った。二人は一緒に歩いて行った。

22:7 イサクは父アブラハムに、「わたしのお父さん」と呼びかけた。彼が、「ここにいる。わたしの子よ」と答えると、イサクは言った。「火と薪はここにありますが、焼き尽くす献げ物にする小羊はどこにいるのですか。」

22:8 アブラハムは答えた。「わたしの子よ、焼き尽くす献げ物の小羊はきっと神が備えてくださる。」二人は一緒に歩いて行った。

の間、悩まずでしょう。

15:14 しかし、わたしは彼らが仕えたその国民をさばきます。その後かれらは多くの財産を携えて出て来るでしょう。

15:15 あなたは安らかに先祖のもとに行きます。そして高齢に達して葬られるでしょう。

15:16 四代目になって彼らはここに帰って来るでしょう。アモリびとの悪がまだ満ちないからです。」

15:17 やがて日は入り、暗やみになった時、煙の立つかまど、炎の出るたいまつが、裂いたものの間を通り過ぎた。

創 22:1～18 (口語訳)

22:1 これらの事の後、神はアブラハムを試みて彼に言われた、「アブラハムよ」。彼は言った、「ここにおります」。

22:2 神は言われた、「あなたの子、あなたの愛するひとり子イサクを連れてモリヤの地に行き、わたしが示す山で彼を燔祭としてささげなさい」。

22:3 アブラハムは朝はやく起きて、ろばにくらを置き、ふたりの若者と、その子イサクとを連れ、また燔祭のたきぎを割り、立って神が示された所に出かけた。

22:4 三日目に、アブラハムは目をあげて、はるかにその場所を見た。

22:5 そこでアブラハムは若者たちに言った、「あなたがたは、ろばと一緒にここにいなさい。わたしとわらべは向こうへ行行って礼拝し、そののち、あなたがたの所に帰ってきます」。

22:6 アブラハムは燔祭のたきぎを取って、その子イサクに負わせ、手に火と刃物とを執って、ふたり一緒に行った。

22:7 やがてイサクは父アブラハムに言った、「父よ」。彼は答えた、「子よ、わたしはここにいます」。イサクは言った、「火とたきぎとはありますが、燔祭の小羊はどこにありますか」。

22:8 アブラハムは言った、「子よ、神みずから燔祭の小羊を備えてくださるであろう」。こうしてふたりは一緒に行った。

22:9 神が命じられた場所に着くと、アブラハムはそこに祭壇を築き、薪を並べ、息子イサクを縛って祭壇の薪の上に載せた。

22:10 そしてアブラハムは、手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとした。

22:11 そのとき、天から主の御使いが、「アブラハム、アブラハム」と呼びかけた。彼が、「はい」と答えると、

22:12 御使いは言った。「その子に手を下すな。何もしてはならない。あなたが神を畏れる者であることが、今、分かったからだ。あなたは、自分の独り子である息子すら、わたしにささげることを惜しまなかった。」

22:13 アブラハムは目を凝らして見回した。すると、後ろの木の茂みに一匹の雄羊が角をとられていた。アブラハムは行ってその雄羊を捕まえ、息子の代わりに焼き尽くす献げ物としてささげた。

22:14 アブラハムはその場所をヤーウエ・イルエ（主は備えてくださる）と名付けた。そこで、人々は今日でも「主の山に、備えあり（イエラエ）」と言っている。

22:15 主の御使いは、再び天からアブラハムに呼びかけた。

22:16 御使いは言った。「わたしは自らにかけて誓う、と主は言われる。あなたがこの事を行い、自分の独り子である息子すら惜しまなかったので、

22:17 あなたを豊かに祝福し、あなたの子孫を天の星のように、海辺の砂のように増やそう。あなたの子孫は敵の城門を勝ち取る。

22:18 地上の諸国民はすべて、あなたの子孫によって祝福を得る。あなたがわたしの声に聞き従ったからである。」

黙 12:17 （新共同訳）

12:17 竜は女に対して激しく怒り、その子孫の残りの者たち、すなわち、神の掟を守り、イエスの証しを守りとおしている者たちと戦おうとして出て行った。

創 15:6 （新共同訳）

15:6 アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。

22:9 彼らが神の示された場所にきたとき、アブラハムはそこに祭壇を築き、たきぎを並べ、その子イサクを縛って祭壇のたきぎの上に載せた。

22:10 そしてアブラハムが手を差し伸べ、刃物を執ってその子を殺そうとした時、

22:11 主の使が天から彼を呼んで言った、「アブラハムよ、アブラハムよ」。彼は答えた、「はい、ここにおります」。

22:12 み使が言った、「わらべを手にかけてはならない。また何も彼にすることはできない。あなたの子、あなたのひとり子をさえ、わたしのために惜しまないので、あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った」。

22:13 この時アブラハムが目をあげて見ると、うしろに、角をやぶに掛けている一頭の雄羊がいた。アブラハムは行ってその雄羊を捕え、それをその子のかわりに燔祭としてささげた。

22:14 それでアブラハムはその所の名をアドナイ・エレと呼んだ。これにより、人々は今日もお「主の山に備えあり」と言う。

22:15 主の使は再び天からアブラハムを呼んで、

22:16 言った、「主は言われた、『わたしは自分をさして誓う。あなたがこの事をし、あなたの子、あなたのひとり子をも惜しまなかったので、

22:17 わたしは大いにあなたを祝福し、大いにあなたの子孫をふやして、天の星のように、浜べの砂のようにする。あなたの子孫は敵の門を打ち取り、

22:18 また地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう。あなたがわたしの言葉に従ったからである』」。

黙 12:17 （口語訳）

12:17 龍は、女に対して怒りを発し、女の子孫の子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った。

創 15:6 （口語訳）

15:6 アブラムは主を信じた。主はこれを彼の義と認められた。

ガラ 3:6～9 (新共同訳)

3:6 れは、「アブラハムは神を信じた。それは彼の義と認められた」と言われているとおりです。

3:7 だから、信仰によって生きる人々こそ、アブラハムの子であるとわきまなさい。

3:8 聖書は、神が異邦人を信仰によって義となさることを見越して、「あなたのゆえに異邦人は皆祝福される」という福音をアブラハムに予告しました。

3:9 それで、信仰によって生きる人々は、信仰の人アブラハムと共に祝福されています。

ヘブ 11:8 (新共同訳)

11:8 信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したのです。

黙 14:6～12 (新共同訳)

14:6 わたしはまた、別の天使が空高く飛ぶのを見た。この天使は、地上に住む人々、あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族に告げ知らせるために、永遠の福音を携えて来て、

14:7 大声で言った。「神を畏れ、その栄光をたたえなさい。神の裁きの時が来たからである。天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい。」

14:8 また、別の第二の天使が続いて来て、こう言った。「倒れた。大バビロンが倒れた。怒りを招くみだらな行いのぶどう酒を、諸国の民に飲ませたこの都が。」

14:9 また、別の第三の天使も続いて来て、大声でこう言った。「だれでも、獣とその像を拝み、額や手にこの獣の刻印を受ける者があれば、

14:10 その者自身も、神の怒りの杯に混ぜものなしに注がれた、神の怒りのぶどう酒を飲むことになり、また、聖なる天使たちと小羊の前で、火と硫黄で苦しめられることになる。

14:11 その苦しみの煙は、世々限りなく立ち上り、獣とその像を拝む者たち、また、だれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も安らぐことはない。」

ガラ 3:6～9 (口語訳)

3:6 このように、アブラハムは「神を信じた。それによって、彼は義と認められた」のである。

3:7 だから、信仰による者こそアブラハムの子であることを、知るべきである。

3:8 聖書は、神が異邦人を信仰によって義とされることを、あらかじめ知って、アブラハムに、「あなたによって、すべての国民は祝福されるであろう」との良い知らせを、予告したのである。

3:9 このように、信仰による者は、信仰の人アブラハムと共に、祝福を受けるのである。

ヘブ 11:8 (口語訳)

11:8 信仰によって、アブラハムは、受け継ぐべき地に出て行けとの召しをこうむった時、それに従い、行く先を知らずに出て行った。

黙 14:6～12 (口語訳)

14:6 わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、

14:7 大声で言った、「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め。」

14:8 また、ほかの第二の御使が、続いてきて言った、「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者」。

14:9 ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、「おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、

14:10 神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られた、神の激しい怒りのぶどう酒を飲み、聖なる御使たちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。

14:11 その苦しみの煙は世々限りなく立ちのぼり、そして、獣とその像とを拝む者、また、だれでもその名の刻印を受けている者は、昼も夜も休みが得られない。

14:12 ここに、神の掟を守り、イエスに対する信仰を守り続ける聖なる者たちの忍耐が必要である。

14:12 ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」。

月曜日	10月5日	エリヤのメッセージ
-----	-------	-----------

問2 列王記(列王紀)上 18:19～39 を読んでください。この物語から、預言者の職務がいかに機能するかについて、どんなことがわかりますか。

エリヤの召しと語り方は、神の使者としての彼の役割を反映していました。イスラエルの背教を止めるために、神はエリヤをアハブ王のもとに遣わし、数年にわたる干ばつを告げさせました。神はこの苦難を用いて、ご自分の民を偶像礼拝から引き離し、従順へと立ち帰らせようとされたのです。しかし王と国民は、自分たちの災いを預言者エリヤのせいにし、彼の死を望みました。

カルメル山で、エリヤはバアルとアシェラ(アシラ)の預言者たちと対峙しました。そして神の使者は、偶像礼拝にふけるイスラエルに対し、偽りの神々を捨て、主に立ち帰るよう、聖霊に満たされて訴えたのです。民は、自らの選択が自分たちを国家的な背教へと導いたことを悟りました。今や彼らは、再びエリヤの神を受け入れる準備ができていました。その神は、実際には存在すらしなない偽りの神々よりも優れていることが証明されていたのです。

キリストの再臨の直前、神はご自分の教会に、再びエリヤのメッセージを宣べ伝えるよう命じておられます。人々が「偶像」から離れ、主の大きな日に立つ備えをするためです。神は今も、ご自分の民に語りかけておられ、御言葉と預言の賜物は、勧告、警告、助言、励ましを与えてくれます。

「真の敬虔が私たちのうちに回復(リバイバル)されることは、すべての必要の中で最大の、最も急を要するものです。これを求めることが、私たちの第一にしなければならないことです。主の祝福を受けるために熱心な努力が必要です。それは、神が祝福を喜んでお与えにならないからではなく、私たちにそれを受け取る備えができていないからです」(『セレクトッド・メッセージ I』157 ページ)。

問3 マラキ 3:23、24 (口語訳 4:5、6) を読んでください。エリヤのメッセージは、神に従う人々の家庭にどんな影響を与えますか。

真のリバイバルは、心と家庭の中から始まります。家族は教会のかなめ石であり、共同体にとって欠かせない構成要素です。家庭におけるリバイバルは、教会、地域社会、国全体に天の愛を広めます。これが、クリスチャン家庭に対する神の目的なのです。リバイバルはまた、神の民を宣教へと駆り立てます。

【参考】英語テキストにある英文

What kinds of idols, if any, exist in our homes, hearts, and churches today?

今日、私たちの家庭、心、そして教会には、もしあるとすれば、どのような偶像が存在しているのでしょうか。

13

王上 18:19～39 (新共同訳)

18:19 今日はイスラエルのすべての人々を、イゼベルの食卓に着く四百五十人のバアルの預言者、四百人のアシラの預言者と共に、カルメル山に集め、わたしの前に出そうように使いを送っていただきたい。」

18:20 アハブはイスラエルのすべての人々に使いを送り、預言者たちをカルメル山に集めた。

18:21 エリヤはすべての民に近づいて言った。「あなたたちは、いつまでどっちつかずに迷っているのか。もし主が神であるなら、主に従え。もしバアルが神であるなら、バアルに従え。」民はひと言も答えなかった。

18:22 エリヤは更に民に向かって言った。「わたしはただ一人、主の預言者として残った。バアルの預言者は四百五十人もいる。」

18:23 我々に二頭の雄牛を用意してもらいたい。彼らに一頭の雄牛を選ばせて、裂いて薪の上に載せ、火をつけずにおかせなさい。わたしも一頭の雄牛を同じようにして、薪の上に載せ、火をつけずにおく。

18:24 そこであなたたちはあなたたちの神の名を呼び、わたしは主の御名を呼ぶことにしよう。火をもって答える神こそ神であるはずだ。」民は皆、「それがいい」と答えた。

18:25 エリヤはバアルの預言者たちに言った。「あなたたちは大勢だから、まずあなたたちが一頭の雄牛を選んで準備し、あなたたちの神の名を呼びなさい。火をつけてはならない。」

18:26 彼らは与えられた雄牛を取って準備し、朝から真昼までバアルの名を呼び、「バアルよ、我々に答えてください」と祈った。しかし、声もなく答える者も

王上 18:19～39 (口語訳)

18:19 それで今、人をつかわしてイスラエルのすべての人およびバアルの預言者四百五十人、ならびにアシラの預言者四百人、イゼベルの食卓で食事する者たちをカルメル山に集めて、わたしの所にこさせなさい」。

18:20 そこでアハブはイスラエルのすべての人に人をつかわして、預言者たちをカルメル山に集めた。

18:21 そのときエリヤはすべての民に近づいて言った、「あなたがたはいつまで二つのものの間に迷っているのですか。主が神ならばそれに従いなさい。しかしバアルが神ならば、それに従いなさい」。民はひと言も彼に答えなかった。

18:22 エリヤは民に言った、「わたしはただひとり残った主の預言者です。しかしバアルの預言者は四百五十人あります。」

18:23 われわれに二頭の牛をください。そして一頭の牛を彼らに選ばせ、それを切り裂いて、たきぎの上に載せ、それに火をつけずにおかせなさい。わたしも一頭の牛を整え、それをたきぎの上に載せて火をつけずにおきましょう。

18:24 こうしてあなたがたはあなたがたの神の名を呼びなさい。わたしは主の名を呼びましょう。そして火をもって答える神を神としましょう。民は皆答えて「それがよからう」と言った。

18:25 そこでエリヤはバアルの預言者たちに言った、「あなたがたは大ぜいだから初めに一頭の牛を選んで、それを整え、あなたがたの神の名を呼びなさい。ただし火をつけてはなりません」。

18:26 彼らは与えられた牛を取って整え、朝から昼までバアルの名を呼んで「バアルよ、答えてください」と言った。しかしなんの声もなく、また答える者もな

なかった。彼らは築いた祭壇の周りを跳び回った。

18:27 真昼ごろ、エリヤは彼らを嘲って言った。「大声で呼ぶがいい。バアルは神なのだから。神は不満なのか、それとも人目を避けているのか、旅にでも出ているのか。恐らく眠っていて、起こしてもらわなければならないのだろう。」

18:28 彼らは大声を張り上げ、彼らのならわしに従って剣や槍で体を傷つけ、血を流すまでに至った。

18:29 真昼を過ぎても、彼らは狂ったように叫び続け、献げ物をささげる時刻になった。しかし、声もなく答える者もなく、何の兆候もなかった。

18:30 エリヤはすべての民に向かって、「わたしの近くに來なさい」と言った。すべての民が彼の近くに來ると、彼は壊された主の祭壇を修復した。

18:31 エリヤは、主がかつて、「あなたの名はイスラエルである」と告げられたヤコブの子孫の部族の数に従って、十二の石を取り、

18:32 その石を用いて主の御名のために祭壇を築き、祭壇の周りに種二セヤを入れることのできるほどの溝を掘った。

18:33 次に薪を並べ、雄牛を切り裂き、それを薪の上に載せ、

18:34 「四つの瓶に水を満たして、いけにえと薪の上にその水を注げ」と命じた。彼が「もう一度」と言うのと、彼らはもう一度そうした。彼が更に「三度目を」と言うのと、彼らは三度同じようにした。

18:35 水は祭壇の周りに流れ出し、溝にも満ちた。

18:36 献げ物をささげる時刻に、預言者エリヤは近くに來て言った。「アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ、あなたがイスラエルにおいて神であられること、またわたしがあなたの僕であって、これらすべてのことをあなたの御言葉によって行ったことが、今日明らかになりますように。

18:37 わたしに答えてください。主よ、わたしに答えてください。そうすればこの民は、主よ、あなたが神であり、彼らの

かったので、彼らは自分たちの造った祭壇のまわりに踊った。

18:27 昼になってエリヤは彼らをあざけって言った、「彼は神だから、大声をあげて呼びなさい。彼は考えにふけているのか、よそへ行ったのか、旅に出たのか、または眠っていて起されなければならないのか」。

18:28 そこで彼らは大声に呼ばわり、彼らのならわしに従って、刀とやりで身を傷つけ、血をその身に流すに至った。

18:29 こうして昼が過ぎても彼らはなお叫び続けて、夕の供え物をささげる時にまで及んだ。しかしなんの声もなく、答える者もなく、また顧みる者もなかった。

18:30 その時エリヤはすべての民にむかって「わたしに近寄りなさい」と言ったので、民は皆彼に近寄った。彼はこわれている主の祭壇を繕った。

18:31 そしてエリヤは昔、主の言葉がヤコブに臨んで、「イスラエルをあなたの名とせよ」と言われたヤコブの子らの部族の数にしたがって十二の石を取り、

18:32 その石で主の名によって祭壇を築き、祭壇の周囲に種二セヤをいれるほどの大きさの、みぞを作った。

18:33 また、たきぎを並べ、牛を切り裂いてたきぎの上に載せて言った、「四つのために水を満たし、それを燔祭とたきぎの上に注げ」。

18:34 また言った、「それを二度せよ」。二度それをするのと、また言った、「三度それをせよ」。三度それをした。

18:35 水は祭壇の周囲に流れた。またみぞにも水を満たした。

18:36 夕の供え物をささげる時になって、預言者エリヤは近寄って言った、「アブラハム、イサク、ヤコブの神、主よ、イスラエルでは、あなたが神であること、わたしがあなたのしもべであって、あなたの言葉に従ってこのすべての事を行ったことを、今日知らせてください。

18:37 主よ、わたしに答えてください、わたしに答えてください。主よ、この民にあなたが神であること、またあなたが彼

心を元に戻したのは、あなたであることを知るでしょう。」

18:38 すると、主の火が降って、焼き尽くす献げ物と薪、石、塵を焼き、溝にあった水をなめ尽くした。

18:39 これを見たすべての民はひれ伏し、「主こそ神です。主こそ神です」と言った。

マラ 3:23、24 (新共同訳)

3:23 見よ、わたしは/大いなる恐るべき主の日が来る前に/預言者エリヤをあなたたちに遣わす。

3:24 彼は父の心を子に/子の心を父に向けさせる。わたしが来て、破滅をもって/この地を撃つことがないように。

らの心を翻されたのであることを知らせてください」。

18:38 そのとき主の火が下って燔祭と、たきぎと、石と、ちりとを焼きつくし、またみぞの水をなめつくした。

18:39 民は皆見て、ひれ伏して言った、「主が神である。主が神である」。

マラ 4:5、6 (口語訳)

4:5 見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。

4:6 彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである」。

火曜日 10月6日 福音の預言者イザヤ

旧約聖書の主要な預言者であるイザヤは、預言者としての召しを神から直接受けました(イザ 6:1~8 参照)。神の聖さと威光に圧倒された彼は、自分がふさわしくないことを悟りました。その時、1人のセラフィム(セラピム)が天の祭壇から燃える炭を持ってイザヤのもとに飛んで来て、彼の罪を「清めた」のです。神は、次のようにお尋ねになりました。「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか」〔口語訳「わたしはだれをつかわそうか。だれがわれわれのために行くだろうか」〕(同 6:8)。イザヤの答えは、私たちの答えでもあるべきです——「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください」〔口語訳「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください」〕(同)。

イザヤの召しは、イスラエルの歴史における転換期になされました。彼自身の欠点にもかかわらず、イスラエルとその指導者たちに彼らの罪を警告する務めは、非常に重要でした。イザヤの預言は、聖書の鍵となる箇所であり、神の性質、人間の性質、そして展開される救済計画について深い洞察を与えてくれます。実際、イエスの死だけでなく、その死が世界に何をもたらしたかを、紛れもなく最も力強く描いた預言は、有名なイザヤ 53 章に見いだされるのです。

問4 イザヤ 53 章を読んでください。十字架の半世紀以上も前に書かれたこの驚くべき預言は、私たちのためのキリストの死を、いかに力強く明らかにしていますか。この預言は、預言の賜物について、どんなことを私たちに教えてくれるでしょうか。

イザヤの預言は、メシアの目的と使命を予告し(イザ 53:3~5)、キリストがなぜ「屠り場に引かれる小羊のよう」〔口語訳「ほふり場にひかれて行く小羊のよう」〕(同 53:7)であったのか、そのあがないの犠牲がいかにご自分の民を罪から救ったのかを説

明しています。キリストの死の身代わりの側面が、そこに極めて明確に描かれており、全人類のためになされた贖罪の土台を示しています。

「わたしたちは羊の群れ/道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。そのわたしたちの罪をすべて/主は彼に負わせられた」〔口語訳「われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた」〕(イザ 53:6)。罪の普遍性がここに描かれており、罪の解決である十字架の普遍性もここに描かれています。旧新両約聖書のいずれの章においても、おそらくこの章ほど、救済計画を明確で曖昧さのない言葉で示している箇所はありません。

しかし、イザヤの召しは、容易なものではありませんでした。人々は、自分たちの滅亡を告げる彼の不吉な預言を荒唐無稽だと感じました。それは、今日、罪の結果(ロマ 6:23)について警告された多くの人がそう感じるのと同じです。イザヤの預言の声は、当時も現代も明確です(イザ 2:4、5:20 参照)。国が正義を行わず、改革を拒んだことが、エルサレムの滅亡を招いたのでした。キリストの再臨の時、同じ罪が地上の悪人たちに滅亡をもたらすことでしょう。

【参考】英語テキストにある文

Go back through Isaiah 53 and write down everything that Jesus does for us, as depicted in those verses. What great hope can you take for yourself from what the prophet has revealed about what Christ's death has done for us?

イザヤ書 53 章を読み返し、そこに描かれている、イエスさまが私たちのためにしてくださったことをすべて書き出してください。キリストの死が私たちに成し遂げたことについて、預言者が明らかにしたことから、あなたはどのような大いなる希望を受け取ることができますか。

14

イザ 6:1~8 (新共同訳)

6:1 ウジヤ王が死んだ年のことである。わたしは、高く天にある御座に主が座しておられるのを見た。衣の裾は神殿いっばいに広がっていた。

6:2 上の方にはセラフィムがいて、それぞれ六つの翼を持ち、二つをもって顔を覆い、二つをもって足を覆い、二つをもって飛び交っていた。

6:3 彼らは互いに呼び交わり、唱えた。「聖なる、聖なる、聖なる万軍の主。主の栄光は、地をすべて覆う。」

6:4 この呼び交わす声によって、神殿の入り口の敷居は揺れ動き、神殿は煙に満たされた。

6:5 わたしは言った。「災いだ。わたしは滅ぼされる。わたしは汚れた唇の者。汚

イザ 6:1~8 (口語訳)

6:1 ウジヤ王の死んだ年、わたしは主が高くあげられたみくらに座し、その衣のすそが神殿に満ちているのを見た。

6:2 その上にセラピムが立ち、おのおの六つの翼をもっていた。その二つをもって顔をおおい、二つをもって足をおおい、二つをもって飛びかけり、

6:3 互に呼びかわして言った。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主、その栄光は全地に満つ」。

6:4 その呼ばわっている者の声によって敷居の基が震い動き、神殿の中に煙が満ちた。

6:5 その時わたしは言った、「わざわざいなるかな、わたしは滅びるばかりだ。わたし

れた唇の民の中に住む者。しかも、わたしの目は/王なる万軍の主を仰ぎ見た。」

6:6 するとセラフィムのひとりが、わたしのところに飛んで来た。その手には祭壇から火鉢で取った炭火があった。

6:7 彼はわたしの口に火を触れさせて言った。「見よ、これがあなたの唇に触れたので/あなたの咎は取り去られ、罪は赦された。」

6:8 そのとき、わたしは主の御声を聞いた。「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。」わたしは言った。「わたしがここにいます。わたしを遣わしてください。」

イザ 53 章 (新共同訳)

53:1 わたしたちの聞いたことを、誰が信じようか。主は御腕の力を誰に示されたことがあろうか。

53:2 乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のように/この人は主の前に育った。見るべき面影はなく/輝かしい風格も、好ましい容姿もない。

53:3 彼は軽蔑され、人々に見捨てられ/多くの痛みを負い、病を知っている。彼はわたしたちに顔を隠し/わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。

53:4 彼が担ったのはわたしたちの病/彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに/わたしたちは思っていた/神の手にかかり、打たれたから/彼は苦しんでいるのだ、と。

53:5 彼が刺し貫かれたのは/わたしたちの背きのためであり/彼が打ち砕かれたのは/わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって/わたしたちに平和が与えられ/彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。

53:6 わたしたちは羊の群れ/道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。そのわたしたちの罪をすべて/主は彼に負わせられた。

53:7 苦役を課せられて、かがみ込み/彼は口を開かなかった。屠り場に引かれる小羊のように/毛を刈る者の前に物を言わない羊のように/彼は口を開かなかった。

は汚れたくちびるの者で、汚れたくちびるの民の中に住む者であるのに、わたしの目が万軍の主なる王を見たのだから。」

6:6 この時セラピムのひとりが火鉢しをもって、祭壇の上から取った燃えている炭を手に携え、わたしのところに飛んできて、

6:7 わたしの口に触れて言った、「見よ、これがあなたのくちびるに触れたので、あなたの悪は除かれ、あなたの罪はゆるされた」。

6:8 わたしはまた主の言われる声を聞いた、「わたしはだれをつかわそうか。だれがわれわれのために行くだろうか」。その時わたしは言った、「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください」。

イザ 53 章 (口語訳)

53:1 だれがわれわれの聞いたことを信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか。

53:2 彼は主の前に若木のように、かわいた土から出る根のように育った。彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もなく、われわれの慕うべき美しさもない。

53:3 彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。

53:4 まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。

53:5 しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめを受けて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。

53:6 われわれはみな羊のように迷って、おのの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。

53:7 彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。

53:8 捕らえられ、裁きを受けて、彼は命を取られた。彼の時代の誰が思い巡らしたであろうか/わたしの民の背きのゆえに、彼が神の手にかかり/命ある者の地から断たれたことを。

53:9 彼は不法を働かず/その口に偽りもなかったのに/その墓は神に逆らう者と共にされ/富める者と共に葬られた。

53:10 病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ/彼は自らを償いの献げ物とした。彼は、子孫が末永く続くのを見る。主の望まれることは/彼の手によって成し遂げられる。

53:11 彼は自らの苦しみの実を見/それを知って満足する。わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために/彼らの罪を自ら負った。

53:12 それゆえ、わたしは多くの人を彼の取り分とし/彼は戦利品としておびただしい人を受け。彼が自らをなげうち、死んで/罪人のひとりに数えられたからだ。多くの人の過ちを担い/背いた者のために執り成しをしたのは/この人であった。

ロマ 6:23 (新共同訳)

6:23 罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。

イザ 2:4 (新共同訳)

2:4 主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし/槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず/もはや戦うことを学ばない。

イザ 5:20 (新共同訳)

5:20 災いだ、悪を善と言い、善を悪と言う者は。彼らは闇を光とし、光を闇とし/苦いものを甘いとし、甘いものを苦いとする。

53:8 彼は暴虐なさばきによって取り去られた。その代の人のうち、だれが思ったであろうか、彼はわが民のとがのために打たれて、生けるものの地から断たれたのだと。

53:9 彼は暴虐を行わず、その口には偽りがなかったけれども、その墓は悪しき者と共に設けられ、その塚は悪をなす者と共にあった。

53:10 しかも彼を砕くことは主のみ旨であり、主は彼を悩まされた。彼が自分を、とがの供え物となすとき、その子孫を見ることができ、その命をながくすることができる。かつ主のみ旨が彼の手によって栄える。

53:11 彼は自分の魂の苦しみにより光を見て満足する。義なるわがしもべはその知識によって、多くの人を義と、また彼らの不義を負う。

53:12 それゆえ、わたしは彼に大いなる者と共に物を分かち取らせる。彼は強い者と共に獲物を分かち取る。これは彼が死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし、とがある者と共に数えられたからである。しかも彼は多くの人の罪を負い、とがある者のためにとりなしをした。

ロマ 6:23 (口語訳)

6:23 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

イザ 2:4 (口語訳)

2:4 彼はもろもろの国のあいだにさばきを行い、多くの民のために仲裁に立たれる。こうして彼らはそのつるぎを打ちかえて、すきとし、そのやりを打ちかえて、かまとし、国は国にむかって、つるぎをあげず、彼らはもはや戦いのことを学ばない。

イザ 5:20 (口語訳)

5:20 わざわいなるかな、彼らは悪を呼んで善といい、善を呼んで悪といい、暗さを光とし、光を暗しとし、苦きを甘しとし、甘きを苦しとする。

ほとんどのクリスチャンは、ダニエルが子どもの頃に学んだ健康の原則を守るために固く立っていたダニエル1章の物語を知っています。ダニエルは忠実さの模範でした(ダニ 1:8)。宮廷のご馳走が出されたときも、王の食卓から供された料理には手をつけず、野菜中心の食物を食べ、水だけを飲むことを主張しました(同 1:12~16)。これは、のちに起こる出来事(例えば、ダニ 6 章)に比べれば、小さな試練でした。ダニエル6章では、その忠実さゆえに命を落としてもおかしくありませんでした。

問4 ダニエル 2:46~48、4:15(口語訳 4:18)、5:13、14、6:26~28(口語訳 6:25~27)を読んでください。これらの聖句は、ダニエルが周囲の異教徒に対してどんな証人であったかについて、何を教えてくれますか。

これらの異教徒がダニエルの神の力について語った証しに注目してください。これらの物語はそれぞれ独自ですが、どれも重要な原則を明らかにしています。それは、私たちの生き方、私たちの忠実さ、私たちを通して働かれる神の力によって、人々は天の神について、またそのお方が「神々の神、すべての王の主」〔口語訳「神々の神、王たちの主」(ダニ 2:47)〕であることを知ることができ、また知るべきだということです。

また、彼の預言に繰り返しあらわれる主題は裁きであり、それはキリストの再臨(神の最終的勝利)で頂点に達するので、「神は私の裁き主」という意味のダニエルという名前は、実にふさわしいと言えます。彼が書き残したものは、現代にも関連性があるため、注意深く研究し、注意を払う価値があります。ダニエルの預言は、人生の「小さな」ことにおいてさえも、常に警戒を怠らず、神の戒めを守るべきだと私たちに思い起こさせてくれるのです。

また預言者として、ダニエルは諸国家の興亡と、神に対するそれらの国々の不従順の結果を予告するとともに、預言的な幻を通して、神の計画と神の王国の最終的な勝利を明らかにしました(ダニ 7:13、14)。

例えば、キリスト誕生の500年前に書かれたダニエル2章について考えてみましょう。ダニエルは、これら四大世界帝国の興亡を、現代(像の足とつま先の部分)に至るまで、正確に描写しています。それは明らかに現代のヨーロッパ諸国を指しており、預言が教えているように、「人々は婚姻によって混じり合います。しかし、鉄が陶土と溶け合うことがないように、ひとつになることはありません」〔口語訳「それらは婚姻によって、互に混ざるでしょう。しかし鉄と粘土とは相混じらないように、かれとこれと相合することはありません」〕(ダニ 2:43)。なんと驚くべき預言でしょう。ソ連崩壊の数年前でさえ、どの課報機関もその崩壊を予見できなかったことを考えれば、ダニエルの預言は、神の預言者たちを信頼すべき説得力のある根拠を与えてくれます。

【参考】英語テキストにある文

All the kingdoms in Daniel 2 came and went as predicted. What should this tell us about trusting the prophecy, which talks about God's eternal kingdom coming next (Dan. 2:44)?

ダニエル書2章に登場するすべての王国は、預言通りに現れては消えていきました。次に神の永遠の御国が到来すると告げる預言(ダニエル 2:44)を信頼することについて、このことは私たちに何を教えてくれるのでしょうか。

15

ダニ 1 章 (新共同訳)

1:1 ユダの王ヨヤキムが即位して三年目のことであった。バビロンの王ネブカドネツアルが攻めて来て、エルサレムを包囲した。

1:2 主は、ユダの王ヨヤキムと、エルサレム神殿の祭具の一部を彼的手中に落とされた。ネブカドネツアルはそれらをシナルに引いて行き、祭具類は自分の神々の宝物倉に納めた。

1:3 さて、ネブカドネツアル王は侍従長アシュペナズに命じて、イスラエル人の王族と貴族の中から、

1:4 体に難点がなく、容姿が美しく、何事にも才能と知恵があり、知識と理解力に富み、宮廷に仕える能力のある少年を何人か連れて来させ、カルデア人の言葉と文書を学ばせた。

1:5 王は、宮廷の肉類と酒を毎日彼らに与えるように定め、三年間養成してから自分に仕えさせることにした。

1:6 この少年たちの中に、ユダ族出身のダニエル、ハナンヤ、ミシャエル、アザリヤの四人がいた。

1:7 侍従長は彼らの名前を変えて、ダニエルをベルテシャツアル、ハナンヤをシャドラク、ミシャエルをメシャク、アザリヤをアベド・ネゴと呼んだ。

1:8 ダニエルは宮廷の肉類と酒で自分を汚すまいと決心し、自分を汚すようなことはさせないでほしいと侍従長に願い出た。

1:9 神の御計らいによって、侍従長はダニエルに好意を示し、親切にした。

ダニ 1 章 (口語訳)

1:1 ユダの王エホヤキムの治世の第三年にバビロンの王ネブカデネザルはエルサレムにきて、これを攻め囲んだ。

1:2 主はユダの王エホヤキムと、神の宮の器具の一部とを、彼の手にながされたので、彼はこれをシナルの地の自分の神の宮に携えゆき、その器具を自分の神の蔵に納めた。

1:3 時に王は宦官の長アシパナズに、イスラエルの人々の中から、王の血統の者と、貴族たる者数人とを、連れて来るように命じた。

1:4 すなわち身に傷がなく、容姿が美しく、すべての知恵にさとく、知識があって、思慮深く、王の宮に仕えるに足る若者を連れてこさせ、これにカルデアびとの文学と言語とを学ばせようとした。

1:5 そして王は王の食べる食物と、王の飲む酒の中から、日々の分を彼らに与えて、三年のあいだ彼らを養い育て、その後、彼らをして王の前に、はべらせようとした。

1:6 彼らのうちに、ユダの部族のダニエル、ハナンヤ、ミシャエル、アザリヤがあった。

1:7 宦官の長は彼らに名を与えて、ダニエルをベルテシャザルと名づけ、ハナンヤをシャドラクと名づけ、ミシャエルをメシャクと名づけ、アザリヤをアベデネゴと名づけた。

1:8 ダニエルは王の食物と、王の飲む酒とをもって、自分を汚すまいと、心に思い定めたので、自分を汚させることのないように、宦官の長に求めた。

1:9 神はダニエルをして、宦官の長の前に、恵みとあわれみとを得させられたので、

1:10 侍従長はダニエルに言った。「わたしは王様が恐ろしい。王様御自身がお前たちの食べ物と飲み物をお定めになったのだから。同じ年ごろの少年に比べてお前たちの顔色が悪くなったら、お前たちのためにわたしの首が危うくなるではないか。」

1:11 ダニエルは、侍従長が自分たち四人の世話係に定めた人に言った。

1:12 「どうかわたしたちを十日間試してください。その間、食べる物は野菜だけ、飲む物は水だけにさせてください。

1:13 その後、わたしたちの顔色と、宮廷の肉類をいただいた少年の顔色をよくお比べになり、その上でお考えどおりにしてください。」

1:14 世話係はこの願いを聞き入れ、十日間彼らを試した。

1:15 十日たってみると、彼らの顔色と健康は宮廷の食べ物を受けているどの少年よりも良かった。

1:16 それ以来、世話係は彼らに支給される肉類と酒を除いて、野菜だけ与えることにした。

1:17 この四人の少年は、知識と才能を神から恵まれ、文書や知恵についてもすべて優れていて、特にダニエルはどのような幻も夢も解くことができた。

1:18 ネブカドネツアル王の定めた年数がたつと、侍従長は少年たちを王の前に連れて行った。

1:19 王は彼らと語り合ったが、このダニエル、ハナンヤ、ミシャエル、アザルヤと並ぶ者はほかにだれもいなかったの、この四人は王のそばに仕えることになった。

1:20 王は知恵と理解力を要する事柄があれば彼らに意見を求めたが、彼らは常に国中のどの占い師、祈禱師よりも十倍も優れていた。

1:21 ダニエルはキュロス王の元年まで仕えた。

ダニ 6:2～29 (新共同訳)

6:2 ダレイオスは、王国に百二十人の総督を置いて全国を治めさせることにし、

1:10 宦官の長はダニエルに言った、「わが主なる王は、あなたがたの食べ物と、飲み物とを定められたので、わたしはあなたがたの健康の状態が、同年輩の若者たちよりも悪いと、王が見られることを恐れるのです。そうすればあなたがたのために、わたしのこうべが、王の前に危くなるでしょう」。

1:11 そこでダニエルは宦官の長がダニエル、ハナンヤ、ミシャエルおよびアザリヤの上に立てた家令に言った、

1:12 「どうぞ、しもべらを十日の間ためてください。わたしたちにただ野菜を与えて食べさせ、水を飲ませ、

1:13 そしてわたしたちの顔色と、王の食物を食べる若者の顔色とをくらべて見て、あなたの見るところにしたがって、しもべらを扱ってください」。

1:14 家令はこの事について彼らの言うところを聞き入れ、十日の間、彼らをためした。

1:15 十日の終りになってみると、彼らの顔色は王の食物を食べたすべての若者よりも美しく、また肉も肥え太っていた。

1:16 それで家令は彼らの食物と、彼らの飲むべき酒とを除いて、彼らに野菜を与えた。

1:17 この四人の者には、神は知識を与え、すべての文学と知恵にさとい者とされた。ダニエルはまたすべての幻と夢とを理解した。

1:18 さて、王が命じたところの若者を召し入れるまでの日数が過ぎたので、宦官の長は彼らをネブカデネザルの前に連れていった。

1:19 王が彼らと語ってみると、彼らすべての中にはダニエル、ハナンヤ、ミシャエル、アザリヤにならぶ者がなかったの、彼らは王の前にはべることとなった。

1:20 王が彼らにさまざまな事を尋ねてみると、彼らは知恵と理解において、全国の博士、法術士にまさること十倍であった。

1:21 ダニエルはキュロス王の元年まで仕えていた。

ダニ 6:1～6:28 (口語訳)

6:1 ダリヨスは全国を治めるために、その国に百二十人の総督を立てることをよ

6:3 また、王に損失がないようにするため、これらの総督から報告を受ける大臣を三人、その上に置いた。ダニエルはそのひとりであった。

6:4 ダニエルには優れた霊が宿っていたので、他の大臣や総督のすべてに傑出していた。王は彼に王国全体を治めさせようとした。

6:5 大臣や総督は、政務に関してダニエルを陥れようと口実を探した。しかし、ダニエルは政務に忠実で、何の汚点も怠慢もなく、彼らは訴え出る口実を見つることができなかった。

6:6 それで彼らは、「ダニエルを陥れるには、その信じている神の法に関してなんらかの言いがかりをつけるほかはあるまい」と話し合い、

6:7 王のもとに集まってこう言った。「ダレイオス王様がとこしえまでも生き永えられますように。

6:8 王国の大臣、執政官、総督、地方長官、側近ら一同相談いたしまして、王様に次のような、勅令による禁止事項をお定めいただくということになりました。すなわち、向こう三十日間、王様を差し置いて他の人間や神に願い事をする者は、だれであれ獅子の洞窟に投げ込まれる、と。

6:9 王様、どうぞこの禁令を出し、その書面に御署名ください。そうすれば、これはメディアとペルシアの法律として変更不可能なものとなり、廃止することはできなくなります。」

6:10 ダレイオス王は、その書面に署名して禁令を発布した。

6:11 ダニエルは王が禁令に署名したことを知っていたが、家に帰るといつものとおり二階の部屋に上がり、エルサレムに向かって開かれた窓際にひざまずき、日に三度の祈りと賛美を自分の神にささげた。

6:12 役人たちはやって来て、ダニエルが

しとし、

6:2 また彼らの上に三人の総監を立てた。ダニエルはそのひとりであった。これは総督たちをして、この三人の前に、その職務に関する報告をさせて、王に損失の及ぶことのないようにするためであった。

6:3 ダニエルは彼のうちにあるすぐれた霊のゆえに、他のすべての総監および総督たちにまさっていたので、王は彼を立てて全国を治めさせようとした。

6:4 そこで総監および総督らは、国事についてダニエルを訴えるべき口実を得ようとしたが、訴えるべきなんの口実も、なんのとがをも見いだすことができなかった。それは彼が忠信な人であって、その身になんのあやまちも、とがも見いだされなかったからである。

6:5 そこでその人々は言った、「われわれはダニエルの神の律法に関して、彼を訴える口実を得るのではなければ、ついに彼を訴えることはできない」と。

6:6 こうして総監と総督らは、王のもとに集まってきて、王に言った、「ダリヨス王よ、どうかとこしえに生きながらえられますように。

6:7 国の総監、長官および総督、参議および知事らは、相はかつて、王が一つのおきてを立て、一つの禁令を定められるよう求めることになりました。王よ、それはこうです。すなわち今から三十日の間は、ただあなたにのみ願い事をさせ、もしあなたをおいて、神または人にこれをなす者があれば、すべてその者を、ししの穴に投げ入れるというのです。

6:8 それで王よ、その禁令を定め、その文書に署名して、メディアとペルシアの変ることのない法律のごとく、これを変えることのできないようにしてください。」

6:9 そこでダリヨス王は、その禁令の文書に署名した。

6:10 ダニエルは、その文書の署名されたことを知って家に帰り、二階のへやの、エルサレムに向かって窓の開かれた所で、以前からおこなっていたように、一日に三度ずつ、ひざをかがめて神の前に祈り、かつ感謝した。

6:11 そこでその人々は集まってきて、ダ

その神に祈り求めているのを見届け、

6:13 王の前に進み出、禁令を引き合いに出してこう言った。「王様、向こう三十日間、王様を差し置いて他の人間や神に願い事をする者があれば、獅子の洞窟に投げ込まれるという勅令に署名をなされたのではございませんか。」王は答えた。「そのとおりだ。メディアとバビロンの法律は廃棄されることはない。」

6:14 彼らは王に言った。「王様、ユダヤからの捕囚の一人ダニエルは、あなたさまをも、署名なされたその禁令をも無視して、日に三度祈りをささげています。」

6:15 王はこれを聞いてたいそう悩み、なんとかダニエルを助ける方法はないものかと心を砕き、救おうとして日の暮れるまで努力した。

6:16 役人たちは王のもとに来て言った。「王様、ご存じのとおり、メディアとバビロンの法律によれば、王による勅令や禁令は一切変更してはならないことになっております。」

6:17 それで王は命令を下し、ダニエルは獅子の洞窟に投げ込まれることになって引き出された。王は彼に言った。「お前がいつも拝んでいる神がお前を救ってくださるように。」

6:18 一つの石が洞窟の入り口に置かれ、王は自分の印と貴族たちの印で封をし、ダニエルに対する処置に変更がないようにした。

6:19 王は宮殿に帰ったが、その夜は食を断ち、側女も近寄らせず、眠れずに過ごし、

6:20 夜が明けるやいなや、急いで獅子の洞窟へ行った。

6:21 洞窟に近づくと、王は不安に満ちた声をあげて、ダニエルに呼びかけた。「ダニエル、ダニエル、生ける神の僕よ、お前がいつも拝んでいる神は、獅子からお前を救い出す力があつたか。」

6:22 ダニエルは王に答えた。「王様がとこ

ニエルがその神の前に祈り、かつ求めていることを見たので、

6:12 彼らは王の前にきて、王の禁令について奏上して言った。「王よ、あなたは禁令に署名して、今から三十日の間は、ただあなたにのみ願い事をさせ、もしあなたをおいて、神または人に、これをなす者があれば、すべてその者を、ししの穴に投げ入れると、定められたではありませんか」。王は答えて言った、「その事は確かであつて、メディアとバビロンの法律のごとく、変えることのできないものだ」。

6:13 彼らは王の前に答えて言った、「王よ、ユダから引いてきた捕囚のひとりである、かのダニエルは、あなたをも、あなたの署名された禁令をも顧みず、一日に三度ずつ、祈りをささげています」。

6:14 王はこの言葉を聞いて大いに憂え、ダニエルを救おうと心を用い、日の入るまで、彼を救い出すことに努めた。

6:15 時にその人々は、また王のもとに集まってきて、王に言った、「王よ、メディアとバビロンの法律によれば、王の立てた禁令、または、おきては変えることのできないものであることを、ご承知ください」。

6:16 そこで王は命令を下したので、ダニエルは引き出されて、ししの穴に投げ入れられた。王はダニエルに言った、「どうか、あなたの常に仕える神が、あなたを救われるように」。

6:17 そして一つの石を持ってきて、穴の口をふさいだので、王は自分の印と、大臣らの印をもって、これに封印した。これはダニエルの処置を変えることのないようにするためであつた。

6:18 こうして王はその宮殿に帰ったが、その夜は食をとらず、また、そばめたちを召し寄せず、全く眠ることもしなかった。

6:19 こうして王は朝まだき起きて、ししの穴へ急いで行ったが、

6:20 ダニエルのいる穴に近づいたとき、悲しげな声をあげて呼ばわり、ダニエルに言った、「生ける神のしもべダニエルよ、あなたが常に仕えている神はあなたを救って、ししの害を免れさせることができたか」。

6:21 ダニエルは王に言った、「王よ、どう

しえまでも生き永えられますように。

6:23 神様が天使を送って獅子の口を閉ざしてくださったので、わたしはなんの危害も受けませんでした。神様に対するわたしの無実が認められたのです。そして王様、あなたさまに対しても、背いたことはございません。」

6:24 王はたいそう喜んで、ダニエルを洞窟から引き出すように命じた。ダニエルは引き出されたが、その身に何の害も受けていなかった。神を信頼していたからである。

6:25 王は命令を下して、ダニエルを陥れようとした者たちを引き出させ、妻子もろとも獅子の洞窟に投げ込ませた。穴の底にも達しないうちに、獅子は彼らに飛びかかり、骨までもかみ砕いた。

6:26 ダレイオス王は、全地に住む諸国、諸族、諸言語の人々に、次のように書き送った。「いっそうの繁栄を願って挨拶を送る。

6:27 わたしは以下のとおりに定める。この王国全域において、すべての民はダニエルの神を恐れかしこまなければならない。この神は生ける神、世々にいまし/その主権は減びることなく、その支配は永遠。

6:28 この神は救い主、助け主。天にも地にも、不思議な御業を行い/ダニエルを獅子の力から救われた。」

6:29 こうしてダニエルは、ダレイオスとペルシアのキュロスの治世を通して活躍した。

ダニ 2:46～48 (新共同訳)

2:46 これを聞いたネブカドネザルはひれ伏してダニエルを拝し、献げ物と香を彼に供えさせた。

2:47 王はダニエルに言った。「あなたがこの秘密を明かすことができたからには、あなたたちの神はまことに神々の神、すべての王の主、秘密を明かす方にちがいない。」

2:48 王はダニエルを高い位につけ、多くのすばらしい贈り物を与え、バビロン全州を治めさせ、バビロンの知者すべての上に長官として立てた。

か、とこしえに生きながらえられますように。

6:22 わたしの神はその使をおくって、ししの口を閉ざされたので、ししはわたしを害しませんでした。これはわたしに罪のないことが、神の前に認められたからです。王よ、わたしはあなたの前にも、何も悪い事をしなかったのです。」

6:23 そこで王は大いに喜び、ダニエルを穴の中から出せと命じたので、ダニエルは穴の中から出されたが、その身になんの害をも受けていなかった。これは彼が自分の神を頼みとしていたからである。

6:24 王はまた命令を下して、ダニエルをあしざまに訴えた人々を引いてこさせ、彼らをその妻子と共に、ししの穴に投げ入れさせた。彼らが穴の底に達しないうちに、ししは彼らにとびかかって、その骨までもかみ砕いた。

6:25 そこでダリヨス王は全世界に住む諸民、諸族、諸言語の者に詔を書きおくって言った、「どうか、あなたがたに平安が増すように。

6:26 わたしは命令を出す。わが国のすべての州の人は、皆ダニエルの神を、おのき恐れなければならない。彼は生ける神であって、とこしえに変わることなく、その国は滅びず、その主権は限りまで続く。

6:27 彼は救を施し、助けをなし、天においても、地においても、しるしと奇跡とをおこない、ダニエルを救って、ししの力をのがれさせたかたである。」

6:28 こうして、このダニエルはダリヨスの世と、ペルシャ人クロスの世において栄えた。

ダニ 2:46～48 (口語訳)

2:46 そこでネブカデネザル王はひれ伏して、ダニエルを拝し、供え物と薫香とを、彼にささげることを命じた。

2:47 そして王はダニエルに答えて言った、「あなたがこの秘密をあらわすことができたのを見ると、まことに、あなたがたの神は神々の神、王たちの主であって、秘密をあらわされるかただ。」

2:48 こうして王はダニエルに高い位を授け、多くの大いなる贈り物を与えて、彼をバビロン全州の総督とし、またバビロンの知者たちを統轄する者の長とした。

ダニ 4:15 (新共同訳)

4:15 これが、わたしネブカドネツアル王の見た夢だ。さて、ベルデシャツアル、その解釈を聞かせてほしい。この王国中の知者はだれひとり解き明かせなかったのだが、聖なる神の霊が宿っているというお前ならできであろう。」

ダニ 5:13、14 (新共同訳)

5:13 そこで、ダニエルが王の前に召し出された。王は彼に言った。「父王がユダから捕らえ帰ったユダヤ人の捕囚の一人、ダニエルというのはお前か。」

5:14 聞くところによると、お前は神々の霊を宿していて、すばらしい才能と特別な知恵を持っているそうだ。

ダニ 6:26～28 (新共同訳)

6:26 ダレイオス王は、全地に住む諸国、諸族、諸言語の人々に、次のように書き送った。「いっそうの繁栄を願って挨拶を送る。」

6:27 わたしは以下のとおりに定める。この王国全域において、すべての民はダニエルの神を恐れかしこまなければならない。この神は生ける神、世々にいましその主権は滅びることなく、その支配は永遠。

6:28 この神は救い主、助け主。天にも地にも、不思議な御業を行い/ダニエルを獅子の力から救われた。」

ダニ 7:13、14 (新共同訳)

7:13 夜の幻をなお見ていると、見よ、「人の子」のような者が天の雲に乗り/「日の老いたる者」の前に来て、そのもとに進み

7:14 権威、威光、王権を受けた。諸国、諸族、諸言語の民は皆、彼に仕え/彼の支配はとこしえに続き/その統治は滅びることがない。

ダニ 2 章 (新共同訳)

2:1 ネブカドネツアル王が即位して二年目のことであった。王は何度も夢を見て不安になり、眠れなくなった。

2:2 王は命令を出して、占い師、祈禱師、まじない師、賢者を呼び出し、自分の夢を説明させようとした。彼らが王の前に

ダニ 4:18 (口語訳)

4:18 われネブカデネザル王はこの夢を見た。ベルデシャザルよ、あなたはその解き明かしをわたしに告げなさい。わが国の知者たちは、いずれもその解き明かしを、わたしに示すことができなかったけれども、あなたにはそれができる。あなたのうちには、聖なる神の霊がやどっているからだ。」

ダニ 5:13、14 (口語訳)

5:13 そこでダニエルは王の前に召された。王はダニエルに言った、「あなたは、わが父の王が、ユダからひきつれてきたユダの捕囚のひとりなのか。」

5:14 聞くところによると、あなたのうちには、聖なる神の霊がやどっていて、明知、分別および非凡な知恵があるそうだ。

ダニ 6:25～27 (口語訳)

6:25 そこでダリヨス王は全世界に住む諸民、諸族、諸言語の者に詔を書きおくって言った、「どうか、あなたがたに平安が増すように。」

6:26 わたしは命令を出す。わが国のすべての州の人は、皆ダニエルの神を、おののき恐れなければならない。彼は生ける神であって、とこしえに変わることなく、その国は滅びず、その主権は終りまで続く。

6:27 彼は救を施し、助けをなし、天においても、地においても、しるしと奇跡とをおこない、ダニエルを救って、ししの力をのがれさせたかたである。」

ダニ 7:13、14 (口語訳)

7:13 わたしはまた夜の幻のうちに見ていると、見よ、人の子のような者が、天の雲に乗ってきて、日の老いたる者のもとに来ると、その前に導かれた。

7:14 彼に主権と光栄と国とを賜い、諸民、諸族、諸言語の者を彼に仕えさせた。その主権は永遠の主権であって、なくなることがなく、その国は滅びることがない。

ダニ 2 章 (口語訳)

2:1 ネブカデネザルの治世の第二年に、ネブカデネザルは夢を見、そのために心に思い悩んで眠ることができなかった。

2:2 そこで王は命じて王のためにその夢を解かせようと、博士、法術士、魔術士、カルデヤびとを召させたので、彼らはき

進み出ると、

2:3 王は言った。「夢を見たのだが、その夢の意味を知りたくて心が落ち着かない。」

2:4 賢者たちは王にアラム語で答えた。「王様がとこしえまでも生き永らえられますように。どうぞ僕らにその夢をお話してください。解釈を申し上げます。」

2:5 王は賢者たちに答えた。「いいか、わたしの命令は絶対だ。もしお前たちがわたしの見た夢を言い当て、その解釈をしてくれなければ、お前たちの体を八つ裂きにし、お前たちの家も打ち壊す。」

2:6 しかし、もしわたしの見た夢を言い当て、正しく解釈してくれれば、ほうびとして贈り物と大いなる名誉を受けよう。だから、その夢を言い当て、解釈してみよ。」

2:7 彼らは繰り返し答えた。「王様、どうぞその夢をお聞かせください。僕らはその解釈をいたしましょう。」

2:8 王は言った。「思ったとおりだ。わたしの命令が必ず実行されることを知っているの、時間を稼ごうとしているのだ。」

2:9 その夢を話して聞かせることができれば、お前たちに下される判決は今言ったとおりだ。だから、わたしの前でうそをついたり、いいかげんなことを述べ立てたりして、わたしの考えが変わるまで時を稼ごうとしているにちがいない。さあ、夢を話してみよ。そうすれば、解釈できるかどうか分かるだろう。」

2:10 賢者たちは王に答えた。「王様のお求めに応じることのできる者は、この地上にはおりません。大王や支配者の中のだれも、そのようなことを占い師、祈禱師、賢者に求めたことはありません。」

2:11 王様のお求めになることは難しく、これに応じることのできるのは、人間と住まいを共になさぬ神々だけでございましょう。」

2:12 王は激しく怒り、憤慨し、バビロンの知者を皆殺しにするよう命令した。

て王の前に立った。

2:3 王は彼らにむかって、「わたしは夢を見たが、その夢を知ろうと心に思い悩んでいる」と言ったので、

2:4 カルデヤびとらはアラム語で王に言った、「王よ、とこしえに生きながらえられますように。どうぞしもべらにその夢をお話してください。わたしたちはその解き明かしを申しあげましょう。」

2:5 王は答えてカルデヤびとに言った、「わたしの言うことは必ず行ふ。あなたがたがもしその夢と、その解き明かしを、わたしに示さないならば、あなたがたの身は切り裂かれ、あなたがたの家は滅ぼされる。」

2:6 しかし、その夢とその解き明かしとを示すならば、贈り物と報酬と大いなる栄誉とを、わたしから受けるだろう。それゆえその夢とその解き明かしとを、わたしに示しなさい。」

2:7 彼らは再び答えて言った、「王よ、しもべらにその夢をお話してください。そうすればわたしたちはその解き明かしを示しましょう。」

2:8 王は答えて言った、「あなたがたはわたしが言ったことは、必ず行ふことを承知しているので、時を延ばそうとしているのを、わたしは確かに知っている。」

2:9 もしその夢をわたしに示さないならば、あなたがたの受ける刑罰はただ一つあるのみだ。あなたがたは一致して、偽りと、欺きの言葉をわたしの前に述べて、時の変るのを待とうとしているのだ。まずその夢をわたしに示しなさい。そうすれば、わたしはあなたがたがその解き明かしをも、示しうることを知るだろう。」

2:10 カルデヤびとらは王の前に答えて言った、「世の中には王のその要求に応じうる者はひとりもありません。どんな大いなる力ある王でも、このような事を、博士、法術士、カルデヤびとに尋ねた者はありませんでした。」

2:11 王の尋ねられる事はむずかしい事であって、肉なる者と共におられない神々を除いては、王の前にこれを示しうる者はいないでしょう。」

2:12 これによって王は怒り、かつ大いに憤り、バビロンの知者をすべて滅ぼせと

2:13 知者を処刑する定めが出されたので、人々はダニエルとその同僚をも殺そうとして探した。

2:14 バビロンの知者を殺そうと出て来た侍従長アルヨクにダニエルは思慮深く賢明に應對し、

2:15 この王の高官アルヨクに尋ねた。「どうして王様はこのような厳しい命令を出されたのですか。」アルヨクはダニエルに事情を説明した。

2:16 ダニエルは王のもとに行って、願った。「しばらくの時をいただけますなら、解釈いたします。」

2:17 ダニエルは家に帰り、仲間のハナニヤ、ミシャエル、アザルヤに事情を説明した。

2:18 そして、他のバビロンの賢者と共に殺されることのないよう、天の神に憐れみを願い、その夢の秘密を求めて祈った。

2:19 すると、夜の幻によってその秘密がダニエルに明かされた。ダニエルは天の神をたたえ、

2:20 こう祈った。「神の御名をたたえよ、世々とこしえに。知恵と力は神のもの。」

2:21 神は時を移し、季節を変え/王を退け、王を立て/知者に知恵を、識者に知識を与えられる。

2:22 奥義と秘義を現し/闇にひそむものを知り/光は御もとに宿る。

2:23 わたしの父祖の神よ、感謝と賛美をささげます。知恵と力をわたしに授け/今、願いをかなえ/王の望むことを知らせてくださいました。」

2:24 それから、ダニエルはバビロンの知者皆殺しの命を受けていたアルヨクのもとに行って、こう言った。「バビロンの知者を殺さないでください。わたしを王様のもとに連れて行ってくだされば、王様に解釈を申し上げます。」

2:25 そこで、アルヨクはおそろおそろダ

命じた。

2:13 この命令が発せられたので、知者らは殺されることになった。またダニエルとその同僚をも殺そうと求めた。

2:14 そして王の侍衛の長アリオクが、バビロンの知者らを殺そうと出てきたので、ダニエルは思慮と知恵とをもってこれに応答した。

2:15 すなわち王の高官アリオクに「どうして王はそんなにきびしい命令を出されたのですか」と言った。アリオクがその事をダニエルに告げ知らせると、

2:16 ダニエルは王のところへはいって、その解き明かしを示すために、しばらくの時を与えられるよう王に願った。

2:17 それからダニエルは家に帰り、同僚のハナニヤ、ミシャエルおよびアザリヤにこの事を告げ知らせ、

2:18 共にこの秘密について天の神のあわれみを請い、ダニエルとその同僚とが、他のバビロンの知者と共に滅ぼされることのないように求めた。

2:19 ついに夜の幻のうちにこの秘密がダニエルに示されたので、ダニエルは天の神をほめたたえた。

2:20 ダニエルは言った、「神のみ名は永遠より永遠に至るまでほむべきかな、知恵と権能とは神のものである。」

2:21 神は時と季節とを変じ、王を廃し、王を立て、知者に知恵を与え、賢者に知識を授けられる。

2:22 神は深妙、秘密の事をあらわし、暗黒にあるものを知り、光をご自身のうちに宿す。

2:23 わが先祖たちの神よ、あなたはわたしに知恵と力とを賜い、今われわれがあなたに請い求めたところのものをわたしに示し、王の求めたことをわれわれに示されたので、わたしはあなたに感謝し、あなたをさんびします。」

2:24 そこでダニエルは、王がバビロンの知者たちを滅ぼすことを命じておいたアリオクのもとへ行って、彼にこう言った、「バビロンの知者たちを滅ぼしてはなりません。わたしを王の前に連れて行ってください。わたしはその解き明かしを王に示します。」

2:25 アリオクは急いでダニエルを王の前

ニエルを王のもとに連れて出て、こう言った。「ユダの捕囚の中に、一人の男が見つかりました。王様に解釈を申し上げると言っております。」

2:26 王はベルテシャツアルの名を持つダニエルに尋ねた。「わたしの見た夢を言い当て、それを解釈してくれると言うのか。」

2:27 ダニエルは王に答えた。「王様が求めになっている秘密の説明は、知者、祈禱師、占い師、星占い師にはできません。」

2:28 だが、秘密を明かす天の神がおられ、この神が将来何事が起こるのかをネブカドネツアル王に知らせてくださったのです。王様の夢、お眠りになっていて頭に浮かんだ幻を申し上げます。

2:29 お休みになって先々のことを思いめぐらしておられた王様に、神は秘密を明かし、将来起こるべきことを知らせようとなされたのです。

2:30 その秘密がわたしに明かされたのは、命あるものすべてにまさる知恵がわたしにあるからではなく、ただ王様にその解釈を申し上げ、王様が心にある思いをよく理解なさるようお助けするためだったのです。

2:31 王様、あなたは一つの像を御覧になりました。それは巨大で、異常に輝き、あなたの前に立ち、見るも恐ろしいものでした。

2:32 それは頭が純金、胸と腕が銀、腹と腿が青銅、

2:33 すねが鉄、足は一部が鉄、一部が陶土でできていました。

2:34 見ておられると、一つの石が人手によらずに切り出され、その像の鉄と陶土の足を打ち砕きました。

2:35 鉄も陶土も、青銅も銀も金も共に砕け、夏の打穀場のもみ殻のようになり、風に吹き払われ、跡形もなくなりました。その像を打った石は大きな山となり、全地に広がったのです。

2:36 これが王様の御覧になった夢です。さて、その解釈をいたしましょう。

に連れて行き、王にこう言った、「ユダから捕え移した者の中に、その解き明かしを王にお知らせすることのできる、ひとりの人を見つけました。」

2:26 王は答えて、ベルテシャザルという名のダニエルに言った、「あなたはわたしが見た夢と、その解き明かしとをわたしに知らせることができるのか。」

2:27 ダニエルは王に答えて言った、「王が求められる秘密は、知者、法術士、博士、占い師など、これを王に示すことはできません。」

2:28 しかし秘密をあらわすひとりの神が天におられます。彼は後の日に起るべき事を、ネブカデネザル王に知らされたのです。あなたの夢と、あなたが床にあって見た脳中の幻はこれです。

2:29 王よ、あなたが床におられたとき、この後どんな事があろうかと、思いまわされたが、秘密をあらわされるかたが、将来どんな事が起るかを、あなたに知らされたのです。

2:30 この秘密をわたしにあらわされたのは、すべての生ける者にまさって、わたしに知恵があるためではなく、ただその解き明かしを、王にお知らせすることによって、あなたが心に思われたことを、お知りになるためです。

2:31 王よ、あなたは一つのたいなる像が、あなたの前に立っているのを見られました。その像は大きく、非常に光り輝いて、恐ろしい外観をもっていました。

2:32 その像の頭は純金、胸と両腕とは銀、腹と、ももとは青銅、

2:33 すねは鉄、足の一部は鉄、一部は粘土です。

2:34 あなたが見ておられたとき、一つの石が人手によらずに切り出されて、その像の鉄と粘土との足を撃ち、これを砕きました。

2:35 こうして鉄と、粘土と、青銅と、銀と、金とはみな共に砕けて、夏の打ち場のもみがらのようになり、風に吹き払われて、あとかたもなくなりました。ところがその像を撃った石は、大きな山となって全地に満ちました。

2:36 これがその夢です。今わたしたちはその解き明かしを、王の前に申しあげま

2:37 王様、あなたはすべての王の王です。天の神はあなたに、国と権威と威力と威光を授け、

2:38 人間も野の獣も空の鳥も、どこに住んでいようとみなあなたの手にゆだね、このすべてを治めさせられました。すなわち、あなたがその金の頭なのです。

2:39 あなたのあとに他の国が興りますが、これはあなたに劣るもの。その次に興る第三の国は青銅で、全地を支配します。

2:40 第四の国は鉄のように強い。鉄はすべてを打ち砕きますが、あらゆるものを破壊する鉄のように、この国は破壊を重ねます。

2:41 足と足指は一部が陶工の用いる陶土、一部が鉄であるのを御覧になりましたが、そのようにこの国は分裂しています。鉄が柔らかい陶土と混じっているのを御覧になったように、この国には鉄の強さもあります。

2:42 足指は一部が鉄、一部が陶土です。すなわち、この国には強い部分もあれば、もろい部分もあるのです。

2:43 また、鉄が柔らかい陶土と混じり合っているのを御覧になったように、人々は婚姻によって混じり合います。しかし、鉄が陶土と溶け合うことがないように、ひとつになることはありません。

2:44 この王たちの時代に、天の神は一つの国を興されます。この国は永遠に滅びることなく、その主権は他の民の手に渡ることなく、すべての国を打ち滅ぼし、永遠に続きます。

2:45 山から人手によらず切り出された石が、鉄、青銅、陶土、銀、金を打つのを御覧になりましたが、それによって、偉大な神は引き続き起こることを王様にお知らせになったのです。この夢は確かであり、解釈もまちがいございません。」

2:46 これを聞いたネブカドネザルはひれ伏してダニエルを拝し、献げ物と香を彼に供えさせた。

2:47 王はダニエルに言った。「あなたがこの秘密を明かすことができたからには、あなたたちの神はまことに神々の神、

しょう。

2:37 王よ、あなたは諸王の王であって、天の神はあなたに国と力と勢いと栄えとを賜い、

2:38 また人の子ら、野の獣、空の鳥はどこにいるものでも、皆これをあなたの手に与えて、ことごとく治めさせられました。あなたはあの金の頭です。

2:39 あなたの後にあなたに劣る一つの国が起ります。また第三に青銅の国が起って、全世界を治めるようになります。

2:40 第四の国は鉄のように強いでしょう。鉄はよくすべての物をこわし砕くからです。鉄がこれらをことごとく打ち砕くように、その国はこわし砕くでしょう。

2:41 あなたはその足と足の指を見られましたが、その一部は陶器師の粘土、一部は鉄であったので、それは分裂した国をさします。しかしあなたが鉄と粘土との混じったのを見られたように、その国には鉄の強さがあるでしょう。

2:42 その足の指の一部は鉄、一部は粘土であったように、その国は一部は強く、一部はもろいでしょう。

2:43 あなたが鉄と粘土との混じったのを見られたように、それらは婚姻によって、互に混ざるでしょう。しかし鉄と粘土とは相混じらないように、かれとこれと相合することはありません。

2:44 それらの王たちの世に、天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく、その主権は他の民にわたされず、かえってこれらのもろもろの国を打ち破って滅ぼすでしょう。そしてこの国は立つて永遠に至るのです。

2:45 一つの石が人手によらずに山から切り出され、その石が鉄と、青銅と、粘土と、銀と、金とを打ち砕いたのを、あなたが見られたのはこの事です。大いなる神がこの後に起るべきことを、王に知らされたのです。その夢はまことであって、この解き明かしは確かです。」

2:46 そこでネブカデネザル王はひれ伏して、ダニエルを拝し、供え物と薫香とを、彼にささげることを命じた。

2:47 そして王はダニエルに答えて言った、「あなたがこの秘密をあらわすことができたのを見ると、まことに、あなたが

すべての王の主、秘密を明かす方にちがいない。」

2:48 王はダニエルを高い位につけ、多くのすばらしい贈り物を与え、バビロン全州を治めさせ、バビロンの知者すべての上に長官として立てた。

2:49 ダニエルは王に願って、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴをバビロン州の行政官に任命してもらった。ダニエル自身は王宮にとどまった。

たの神は神々の神、王たちの主であって、秘密をあらわされるかただ」。

2:48 こうして王はダニエルに高い位を授け、多くの大いなる贈り物を与えて、彼をバビロン全州の総督とし、またバビロンの知者たちを統轄する者の長とした。

2:49 王はまたダニエルの願いによって、シャデラクとメシャクとアベデネゴを任命して、バビロン州の事務をつかさどらせた。ただしダニエルは王の宮にとどまっていた。

木曜日 10月8日 民を備えさせるバプテスマのヨハネ

問6 マルコ 1:2~5 を読んでください。バプテスマのヨハネの働きの目的は、何でしたか。

マルコによる福音書は、バプテスマのヨハネの到来がイザヤの預言(イザ 40:3)の成就であったと伝えています。幼少期から成人期にかけてのヨハネの成長は、神への忠実さによって特徴づけられました。サタンは、荒れ野でのヨハネの声を聞いたあと、人類に対する支配権を失うことを恐れしました(『希望への光』780ページ、『各時代の希望』第22章参照)。ヨハネの話を聞く聴衆の邪悪さがサタンを震え上がらせる形で暴かれ、イスラエルに対するサタンの支配力が脅かされつつありました。サタンはバプテスマのヨハネを、その忠実な生き方やメシアへの信頼から引き離そうと繰り返し試みましたが、うまくいきませんでした。

問7 マタイ 11:1~6 を読んでください。説教者ヨハネが牢の中にいたとき、イエスはどのように彼の信仰を改めて確かなものとなさいましたか。

サタンはイエスを罪へ誘い込むことができず、荒れ野での敗北に激怒しました。そこでサタンは戦術を変え、イエスのいところであるヨハネを投獄しました。サタンはイエスを罪へ誘うことはできませんでしたが、ヨハネの投獄によってイエスの心は痛みました。これは、救い主の心を感情的に苦しめながら、ヨハネを打ち砕くサタンのやり方でした。しかし、ヨハネはイエスから励ましの言葉を受けます。そして彼は、自分がひどい状況にあり、イエスが力強いお方なのになぜ自分が投獄されたままなのかをまったく理解できなかったにもかかわらず、死に至るまで忠実であり続けたのです。

昔の預言者たちと同様、私たちも、悔い改めと信仰、キリストの義の完全さというメッセージを宣べ伝えるように召されています(黙 14:6~12)。バプテスマのヨハネにしたように、サタンは不確かさを用いて、私たちの人生に対する神の使命を疑

わせようとするかもしれません。しかし、私たちの人生における神の導きを思い出すなら、落胆する必要はありません。人間が私たちに何をしようとも、私たちは信仰をもって神に手を差し伸べることができ、そうすれば、神は応えてくださいます。神は、私たちが御心を行う力を約束しておられます(使徒1:8)。脱キリスト教世界や非キリスト教世界において、どんな状況にあっても、私たちはキリストの忠実な証人でなければなりません。

【参考】英語テキストにある文

Have you ever been in a position, as John was while in jail, where you just could not understand why such bad things were happening to you? How did you maintain your faith and trust in God?

まるでヨハネが投獄されていた時のように、なぜあなたにこれほどひどいことが起こるのか、どうしても理解できないという状況に陥ったことはありますか。そんな時、どのようにして神への信仰と信頼を保ち続けましたか。

16

マコ 1:2～5 (新共同訳)

1:2 預言者イザヤの書にこう書いてある。「見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの道を準備させよう。

1:3 荒野で叫ぶ者の声がする。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』/そのとおり、

1:4 洗礼者ヨハネが荒野に現れて、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。

1:5 ユダヤの全地方とエルサレムの住民は皆、ヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。

イザ 40:3 (新共同訳)

40:3 呼びかける声がある。主のために、荒野に道を備え/わたしたちの神のために、荒れ地に広い道を通せ。

マタ 11:1～6 (新共同訳)

11:1 イエスは十二人の弟子に指図を与え終わると、そこを去り、方々の町で教え、宣教された。

11:2 ヨハネは牢の中で、キリストのなさったことを聞いた。そこで、自分の弟子たちを送って、

11:3 尋ねさせた。「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」

マコ 1:2～5 (口語訳)

1:2 預言者イザヤの書に、「見よ、わたしは使をあなたの先につかわし、あなたの道を整えさせるであろう。

1:3 荒野で呼ばれる者の声がする、『主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ』と書いてあるように、

1:4 バプテスマのヨハネが荒野に現れて、罪のゆるしを得させる悔改めのバプテスマを宣べ伝えていた。

1:5 そこで、ユダヤ全土とエルサレムの全住民とが、彼のもとにぞくぞくと出て行って、自分の罪を告白し、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けた。

イザ 40:3 (口語訳)

40:3 呼ばれる者の声がする、「荒野に主の道を備え、さばくに、われわれの神のために、大路をまっすぐにせよ。

マタ 11:1～6 (口語訳)

11:1 イエスは十二弟子にこのように命じ終えてから、町々で教えたまた宣べ伝えるために、そこを立ち去られた。

11:2 さて、ヨハネは獄中でキリストのみわざについて伝え聞き、自分の弟子たちをつかわして、

11:3 イエスに言わせた、『きたるべきかた』はあなたなのですか。それとも、ほかになれかを待つべきでしょうか。』

11:4 イエスはお答えになった。「行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい。」

11:5 目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。

11:6 わたしにつまずかない人は幸いである。」

黙 14:6～12 (新共同訳)

14:6 わたしはまた、別の天使が空高く飛ぶのを見た。この天使は、地上に住む人々、あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族に告げ知らせるために、永遠の福音を携えて来て、

14:7 大声で言った。「神を畏れ、その栄光をたたえなさい。神の裁きの時が来たからである。天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい。」

14:8 また、別の第二の天使が続いて来て、こう言った。「倒れた。大バビロンが倒れた。怒りを招くみだらな行いのぶどう酒を、諸国の民に飲ませたこの都が。」

14:9 また、別の第三の天使も続いて来て、大声でこう言った。「だれでも、獣とその像を拝み、額や手にこの獣の刻印を受ける者があれば、

14:10 その者自身も、神の怒りの杯に混ぜものなしに注がれた、神の怒りのぶどう酒を飲むことになり、また、聖なる天使たちと小羊の前で、火と硫黄で苦しめられることになる。

14:11 その苦しみの煙は、世々限りなく立ち上り、獣とその像を拝む者たち、また、だれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も安らぐことはない。」

14:12 ここに、神の掟を守り、イエスに対する信仰を守り続ける聖なる者たちの忍耐が必要である。

使徒 1:8 (新共同訳)

1:8 あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

11:4 イエスは答えて言われた、「行って、あなたがたが見聞きしていることをヨハネに報告しなさい。」

11:5 盲人は見え、足なえは歩き、重い皮膚病にかかった人はきよまり、耳しいは聞え、死人は生きかえり、貧しい人々は福音を聞かされている。

11:6 わたしにつまずかない者は、さいわいである。」

黙 14:6～12 (口語訳)

14:6 わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、

14:7 大声で言った、「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め。」

14:8 また、ほかの第二の御使が、続いてきて言った、「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者」。

14:9 ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、「おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、

14:10 神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られた、神の激しい怒りのぶどう酒を飲み、聖なる御使たちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。

14:11 その苦しみの煙は世々限りなく立ちのぼり、そして、獣とその像とを拝む者、また、だれでもその名の刻印を受けている者は、昼も夜も休みが得られない。14:12 ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」。

使徒 1:8 (口語訳)

1:8 ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

神は、特定の時に、特別な目的のために、預言者を召されます。彼らは、その時代に必要なメッセージを持ってあらわれました。そのような意味において、セブンスデー・アドベンチストは、エレン・ホワイトが預言の賜物を現代にあらわした人物の1人であり、ちょうど非正典(聖書に書巻を残さなかった)預言者(今後の研究で詳しく説明)のような働きをしたと信じています。エレン・ハーモン(ホワイト)は、1844年12月に最初の召しを受けました。それは、ミラー派の再臨信徒がダニエル8:14の「日が暮れ、夜の明けること二千三百回に及んで、聖所はあるべき状態に戻る」〔口語訳「二千三百の夕と朝の間である。そして聖所は清められてその正しい状態に復する」〕という言葉に基づいて、イエスが戻られるのを期待していた数週間後のことでした。

ウィリアム・ミラーは、具体的な日付を設定しませんでした。彼の信奉者たちは最終的に、聖書の贖罪日の時間計算に基づき、1844年10月22日をキリストが地上に戻られる日としました。この信仰は、北米や世界のほかの地域で、何千何万もの人々に非常に大きな期待をもたらしました。間もなく、彼らは天で救い主と一つになるはずでした。ミラーもまた、待望の再臨が近づくにつれ、興奮と熱意に満ちていきました。

しかし、キリストはあらわれず、ミラー派の信徒たちは、史上最も悲惨な出来事の一つである「大失望」を経験したのです。

このような状況の中で、神はエレン・ハーモンに最初の幻をお与えになりました。そのおもなメッセージは、彼女や失望した信徒たちを励ますもの、つまり、彼らの誤った解釈にもかかわらず、神は今も彼らと共におられるというものでした。その幻は、この地上から天のエルサレムへ続く道を指し示しており、その道を、再臨信徒たちが聖なる都へと旅していました。そして、「彼らが、自分たちのすぐ前におられ、都へ導いてくださっているイエスに目を留めていれば、彼らは安全だった」(『霊的な賜物』第2巻 31ページ、英文)のです。

【参考】—— Ellen G. White, *Spiritual Gifts*, vol. 2, p. 31.

“if they kept their eyes fixed on Jesus, who was just before them, leading them to the city, they were safe.”

この幻は良い知らせでした。失望の混乱の中から、神は新たな運動を生み出そうとしておられたのです。イエスは、今もお彼らと共におられ、必ず戻って来られ、依然として救いの道の途上にある彼らを導いておられました。彼らはただ、イエスに「目を留めて」いさえすればよかったのです。これほどの混乱と失望の中にあっても、彼らには希望を捨てない十分な理由がありました。

こうして、17歳のエレン・ハーモンは、預言者としての働きに召されました。彼女の歩みは、特に最初のうちは、容易なものではありませんでした。この賜物は徐々に本物として認められていきましたが、エレン・ホワイトは神の使者となることを恐れていました。神の預言者であることは、決して容易なことでも名誉なことでもなかったからです。では、エレン・ホワイトは、どのように神の召しに従うことになった

のでしょうか。来週は、旧約聖書の預言者が担った特別な働きや直面した課題について、詳しく見ていきます。【【参考】英語テキストには続きがあります。some of which are also echoed in the life and ministry of Ellen G. White, as we will learn next Friday. その中には、来週の金曜日に学ぶことになるエレン・G・ホワイトの生涯や働きにも共通する点があります。】

17

ダニ 8:14 （新共同訳）

8:14 彼は続けた。「日が暮れ、夜の明け
ること二千三百回に及んで、聖所はある
べき状態に戻る。」

ダニ 8:14 （口語訳）

8:14 彼は言った、「二千三百の夕と朝の
間である。そして聖所は清められてその
正しい状態に復する」。